

「事業名:災害・被ばく医療科学分野の人材育成による知の交流拠点構築事業」

長崎大学（共同申請：福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学）

現地拠点：福島県双葉郡川内村大字上川内字小山平15-1/富岡町大字本岡字王塚622-1/大熊町大字大川原字南平1717/双葉町大字長塚字町西73番地4

事業のポイント

長崎大学が復興推進拠点を設置している川内村、富岡町、大熊町及び双葉町において、福島県立医科大学や福島大学、東日本国際大学といった福島県下の大学、さらに国際放射線防護委員会（ICRP）や経済協力開発機構（OECD）といった国際機関と連携して世界中の災害・被ばく医療科学の専門家を育成する「復興知を学ぶ」知の交流拠点を浜通りに構築します。

人材育成目標

1. 災害・被ばく医療科学分野の正しい知識を持ったうえで、福島の復興、発展を主導できる人材を育成します。
2. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、国内において本分野を担う人材を育成します。
3. 浜通りにおいて災害・被ばく医療科学の実践を学び、グローバルに本分野を担う人材を育成します。

2025年度の活動内容

1. 引き続き、川内村、富岡町、大熊町及び双葉町において、「住民と行政、専門家が一体となった原子力災害からの復興支援」を推進します。
2. 処理水の海洋放出や廃炉についてのリスクコミュニケーションや、特定帰還居住区域の避難解除に向けたモニタリング、および当該区域に帰還したり新規に転居する予定の住民へのリスクコミュニケーションを重点的に実施します。
3. 福島県立医科大学、福島大学、東日本国際大学と連携して「救急医学セミナー」、「環境放射能学セミナー」「復興学セミナー」を浜通りにおいて開催し、福島県下の若者世代の人材育成に貢献します。
4. 世界各国の災害・被ばく医療科学の専門家を招聘する国際セミナーを開催し、災害・被ばく医療科学分野のグローバル人材育成を浜通りで行います。

取り組みによって得られる成果

上記のような取り組みを行うことで、福島県浜通りに「災害・被ばく医療科学」のグローバル人材を育成し、「復興知を学ぶ」知の交流拠点を構築します。

